

差別なく互に楽しく閉会す。
 四、運動会に対する所感
 1. P.T.Aが終始一貫共同一致して諸準備から当日の進行あとかたづけに至るまでまったく自分の仕事の如く全責任をもつて協力せられ、さいわい好天氣に恵まれ盛大裡に終了出来たことは喜びにたえない。

2. 父兄と園児の共同遊競技についてはほとんど全員参加して親子互に手をつなぎ喜々としてなごやかな風景が転回されたことは、まことに幼稚園教育と家庭教育とが混然一体となりまことにほほえましい極みであった。
 (太田幼稚園長)

運動会をふりかえつて

黒川 鈴子

みのりの秋とともに、子どもたちの活動も一しほ旺盛になり「先生、早よう幼稚園の庭は狭いし、学校の運動場で走りっこしようなあー」「あしたも又しようね」「きつとよ、きつとよ」と運動会をひかえて、競技に、リズム遊戲にと、拍車がかけられる。

性を、あますところなく發揮し、双の瞳を輝かす。思わず「○○ちゃんばかりっこなの」と言い出しそうになるのを、「よくがんばって走ったね。よかつたね」と、汗で濡れた頭を撫ぜる。「うん」と、かぶりを振ったかと思うと、またスタートへと走り去っていく。

待望の運動会当日は、幼な子たちの、てるてる坊主への願いも空しく朝から兩空。そのことによつていっそう明日の運動会の期待も大きかった。翌日は願がかなって運動会日和。小学校の児童にまじって、白い運動帽・赤い鉢巻姿もかわいく、次々と競技は展開されていく。

園児のP・C(親子)のフォーグ・ダンスに、和やかな雰囲気がいっぱし流れる。親子手を取りあい、楽しそうに互に笑みを交わして、ルビ・ルー(イギリス)桑の中(アメリカ)のメロデーとともに、足どりも軽ろやかに踊るようすに、学校の観覧席の父兄たちからは、割れるばかりの拍手が起った。いつもあそびの仲間へ入れなかつたR児S児K児も、いつのほどにか、競争への興味にひかれ、歓声をあげて、あそびの中へ入っている。このように子どもに要求に基づいて、自然な型であそびの仲間入りができたことは、大きな収穫であつたと思う。

これらの演技を通して、どの子ども、どの子も心身ともに、生氣に満ちあふれ、皆で、楽しい僕たち私たちの運動会をしようといつた、力強い、また、協力的な態度で運動会にのぞんだことを喜ばしく思う。

運動会の数日後、K児が「先生、ゆうべな、お父さんと、お母さんと、お兄さんと、僕と、みーんなでフォーグダンスしたよ、僕が先生になつて」と、いつになく晴れぱれた顔で私に話しかける。これだ！運動会といった場だけに限らず、家中がメロデーを口ずさみ、小さい先生を中心に、こんなひとときが一年の間に何回か、自然なかたちで生まれてくれることを。園生活にだけとどまらず、家庭生活の中にリズムが流れ、一家相和した雰囲気がいつまでも、かもし出されることを願っている。

こういうような健康的な明るさ、協力的な態度は、運動会のみにとどまらず、幼児期の生活のあらゆる場で生かされなければならぬものである。

また、運動会を契機として、幼児の心身の調和的発達を促すことから、活動の旺盛なこの時期を捉

え、個人の運動能力を伸長する機会として活用することの必要を感じ、運動能力を測定し、全園児・保育歴別（一年保育・二年保育年少、年長）年令別における傾向を知り、個人プロフィールによつ

て、発達段階に応じた計画をたて、集団指導の手がかりにし、いっそう健全な身体の子どもへと、努力している。

（滋賀大学付属幼稚園）

自由表現を生かした運動会

佐藤悦子

○発達段階の考慮と自由表現
従来運動会といえば、たんなる

カケッコとたんなる遊戯が中心になる傾向があった。それらはいずれも画一的なものであり、特に遊戯などは、教師から既成のものを教え込まれ、一挙一動ま違えずにすれば「よくできた」と賞讃され、さもなければ、叱言の幾つもきかされながら無理矢理に、同じ動作を強制せられる傾向があった。幼児にとって楽しいはずの運動会も、これでは興味が半減され、むしろ苦痛とさえ感じられる場合も少なくなかったであろう。

当園は、そのような過去のあり方を反省し、幼児に、無理なく、楽しみながら、誰でもが参加できる運動会にするためには、何が必要であるかを考えてみた。無理なく楽しくするための手段方法は、いくらでもあると思われるが、その

の根底をなす大きな条件は、発達段階の考慮と、自由性のある動き（表現）をさせることであると思ふ。

しかし発達段階を考慮するあまり、その動き全体が、単純且無味乾燥なものであったり、自由な動き（表現）のため、まとまりのつ

かないものであつては、その要をなさない。運動会であるからには、運動量があり、自ら楽しむと同時に、見るものを楽しませる要素を、ともにもたなくてはならない。単純で自然な動きの中に、美しさの描かれるものを意図しながら、本年は次のような種目を試みてみた。

○本園の実態（小学校と合同）

春季の運動会は、集団生活に不馴れの幼児たちの集いであるため、とくに無理のない動きを考慮した。

○年少児拍子をとることを主とする。

○一年児前後の動きを主とする。

○年長児前後左右の動きを主とする。

秋季の運動会は、経験も豊富になり、表現力も的確旺盛になっているので、自由表現を主としたものを取扱ひ、併せて母親も参加出場させ、一しょになつて、より楽しくリズム遊びをさせた。
○曲のある一部分だけは、まとまりのある体型を要求する。

○母親の動きと表現はグループごとに創意工夫をせしめらう。
競技（親子競技）

組	種目	期待する能力
年少児	だるまおとし	技力
一年児	猫にかん音感	機敏性
年長児	大積木で重たくり	グループの協調
	家づくり	創意工夫

○結び

とくに発達段階を考慮し、子どもに適した、しかも自由性のあるものを選び、反復練習しなければできぬようなむづかしい、あるいは画一的な内容のものは排除し、子どもがじゅうぶんに活躍でき、興味のあるものにした。運動会に必要な道具は、誘導の段階として、できるだけ幼児の手で製作させることが望ましく、また工夫させたいものと思ふ。

（鳥根大学付属幼稚園）